

- (3) 運用構想
別紙1参照
- (4) 試作品(誘導装置1型)の概要
別紙2参照
- (5) システム設計結果の一例
別紙3参照

5 評価の概要

(1) 議論・質疑が集まったところ

- ・ CFT*での擬似目標について
- ・ デジタルパルス圧縮処理について
- ・ 艦船のRCSシミュレーション手法と海面と艦船との多重反射の影響について
- ・ 誘導方式について

(2) 頂いたコメント、提言等

- 諸外国の類似技術の調査は困難であると思うが、継続的な調査が望まれる。
- 符号系列の相互相関等について今後検討を深めてほしい。
- 検知確率や誤警報確率も検討してほしい。
- シミュレーションでは妥当な結果を得ており、CFT等による原理確認に期待したい。

(3) 外部評価委員会のまとめ

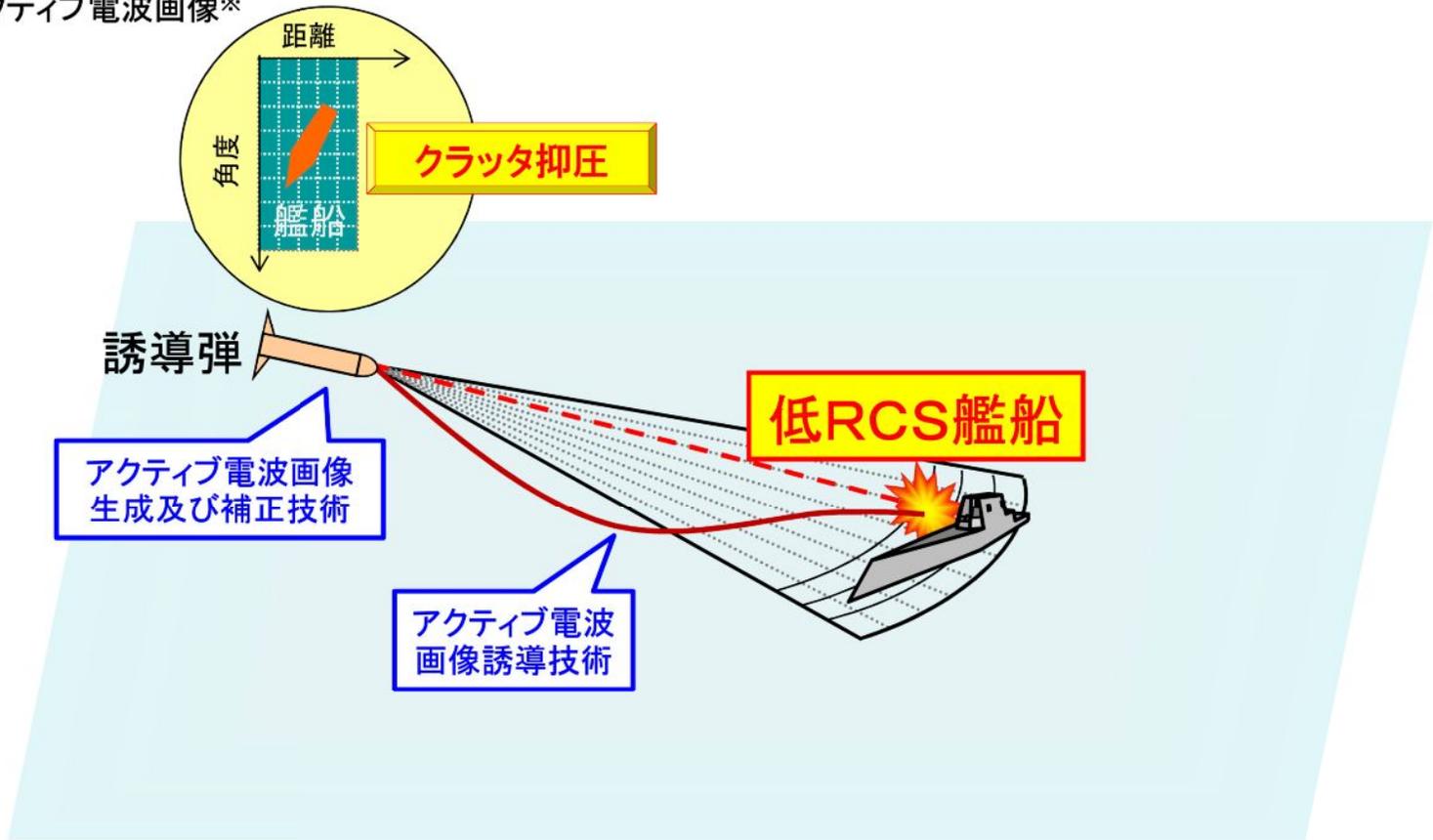
ドップラービームシャープニング方式を用いることによって、電波画像技術における角度分解能を向上し、クラッタ量を低減させることで、信号クラッタ比の低下する低RCS目標への対処に取り組んでいることを高く評価する。

今後の研究においては、実証的な試験データを取得し、実効性を伴う技術を確立されたい。本技術を適用した飛しょう体の航法についても今後詳細な検討を要望する。

※ CFT : Captive Flight Test 航空機等にミサイルの誘導装置を取り付け、ミサイルの飛しょう経路を飛行し、ミサイルの誘導装置の性能を確認する試験

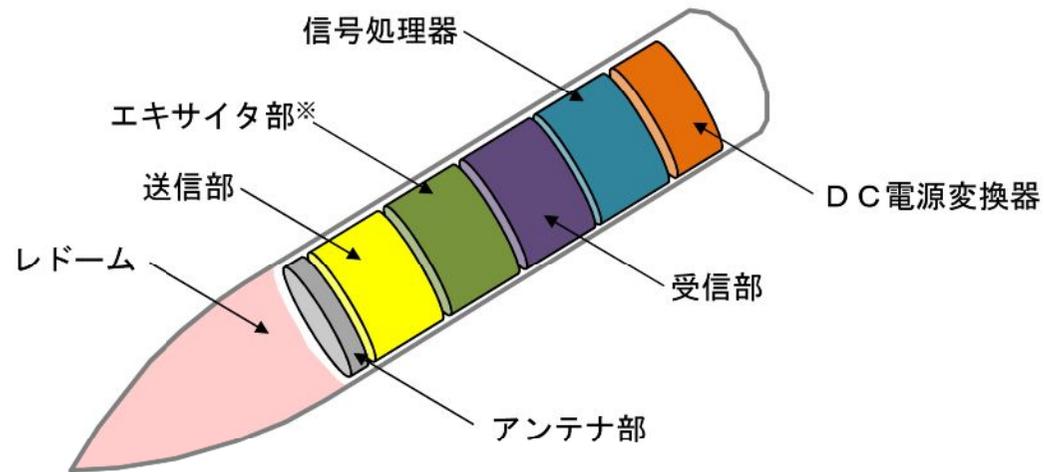
運用構想

アクティブ電波画像※



※ ビーム内の距離・角度分解能を高分解能化し、画像化したもの

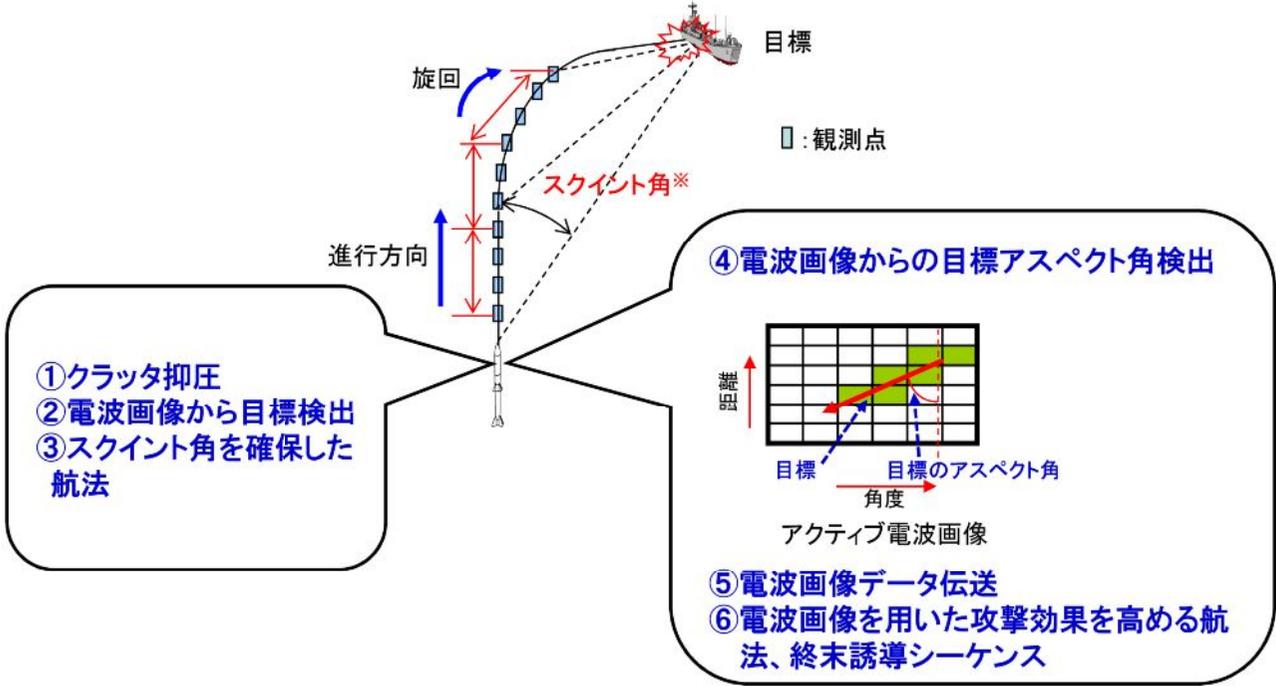
試作品(誘導装置1型)の概要



※ エキサイタ部:レーダ送信波を発生させる励振部

システム設計結果の一例

誘導の詳細



結果	飛しょう体の誘導は、DBS処理によるクラッタ抑圧及び電波画像生成を可能とするため、スクイント角を確保した航法とする。
-----------	--

※ スクイント角：飛しょう速度と目標方向のなす角(ジンバルの首振り角)